SWTシリーズ USB転送ドライバのインストール

Windows PC を使用して膜厚計 SWT シリーズの USB 転送を行うにはドライバのインストールが 必要です。

1. ドライバのインストール

①作業に用いる Windows 接続用ドライバのインストール

- パソコンを起動し管理者権限のアカウントでログインしてください。添付の「SWT シ リーズ USB 転送機能用ドライバ」(CD-ROM)を CD-ROM ドライブに入れます。
- インストールプログラムは Windows XP の場合 [スタート] メニューから [マイコン ピュータ] を選び、その中の CD-ROM を開き、「SWT シリーズ USB 転送機能用ドライ バ」アイコンをダブルクリックします。
- 次に、開いたファイルの中の[CP210xVCPInstaller.exe]をダブルクリックしインストール作業を開始します。
- 「セキュリティの警告」が出た場合は、実行(R) をクリックし継続します。

開いているファイル - セキュリティの警告			
このファイルを実行しますか?			
名前: CP210xVCPInstaller.exe 発行元: <u>Silicon Laboratories</u> 種類: アプリケーション 発信元: C:¥Documents and Settings¥lenovo¥デスクトップ¥swt_N¥US			
実行(R) キャンセル			
▶ この種類のファイルであれば常に警告する(₩)			
インターネットのファイルは役に立ちますが、このファイルの種類はコンピュータに問題 を起こす可能性があります。信頼する発行元のソフトウェアのみ、実行してください 。危険性の説明			
🚜 Silicon Laboratories CP210x USB to UART Bridge Driver Installer 🛛 🔀			
Silicon Laboratories Silicon Laboratories CP210x USB to UART Bridge			
Installation Location: Driver Version 6.3			
C:¥Program Files¥Silabs¥MCU¥CP210x¥			
Change Install Location Install Cancel			

- ・ 上記の画面になります。確認して Install をクリックします。
- このインストールされる場所は「②膜厚計接続のドライバのインストール」で利用しますので覚えておいて下さい。



・ 上記の画面が出ますが、

続行(C)をクリックします。

Success	X
(i)	Installation completed successfully
	OK

- 上記の画面になります。OK をクリックしインストールを完了します。
- これでドライバのインストールは終了します。
- ※ このインストール完了後、本体を USB ケーブルで接続すると膜厚計接続のためのドライバの インストールウイザードが起動しますのでガイドに従ってインストールを行います。

②膜厚計接続のドライバのインストール

前項①の作業終了後、最初に膜厚計本体を接続すると「新しいハードウエアが見つかりました」 のコメントが表示され、インストールウイザードが開始します。



・ 「いいえ、今回は接続しません(T)」を選択し<mark>次へ(N)></mark> をクリックします。



• 「一覧または特定の場所からインストールする」を選択し 次へ(N)> をクリックます。

新しいハードウェアの検出ウィザード
検索とインストールのオブションを選んでください。
 ○ 次の場所で最適のドライバを検索する(S) 下のチェックボックスを使って、リムーバブルメディアやローカルパスから検索できます。検索された最適のドライバがインストールされます。 ✓ リムーバブルメディア (フロッピー、CD-ROM など)を検索(M) ✓ 次の場所を含める(Q): C*Program Files¥Silabs¥MCU¥CP210x ✓ 検索しないで、インストールするドライバを選択する(D) 一覧からドライバを選択するには、このオブションを選びます。選択されたドライバは、ハードウェアに最適のものとは限りません。
〈戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

・ 参照(R) ボタンを押してドライバの場所を限定します。

(参照場所は①でインストールした場所になります。)

新しいハードウェアの検出ウィザード
検索とインストールのオブションを選んでください。
○ 次の場所で最適のドライバを検索する(S) 下のチェックボックスを使って、リムーバブルメディアやローカルパスから検索できます。検索された最適のドラ
イバがインストールされます。 「 リムーバブル メディア (フロッピー、 CD-ROM など) を検索(M)
▼ 次の場所を含める(Q):
C:¥Program Files¥Silabs¥MCU¥CP210x ■ <u>● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● </u>
● 検索しないと、インストール9るトライバを選択9るセン 一覧からドライバを選択するには、このオブションを選びます。選択されたドライバは、ハードウェアに最適のもの とは限りません。
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

インストール場所は①でインストールした場所になります。次へ(N)> をクリックします。
 (PC により表示が異なる場合があります)

ハードウェア	のインストール
⚠	このハードウェア: CP210x USB to UART Bridge
	を使用するためにインストールしようとしているソフトウェアは、Windows XP との 互換性を検証する Windows ロゴ テストに合格していません。 に <u>のテストが重要である理由</u>)
	インストールを続行した場合、システムの動作が損なわれたり、システム が不安定になるなど、重大な障害を引き起こす要因となる可能性があり ます。今すぐインストールを中断し、Windows ロゴ テストに合格したソフ トウェアが入手可能かどうか、ハードウェア ベンダーに確認されることを、 Microsoft は強くお勧めします。
	続行(C) (インストールの停止)C

・ 上記の画面が出ますが、

続行(C)

をクリックします。

新しいハードウェアの検出ウィザード			
	新しいハードウェアの検索ウィザードの完了		
	次のハードウェアのソフトウェアのインストールが完了しました		
	CP210x USB to UART Bridge		
	[完了] をクリックするとウィザードを閉じます。		
	< 戻る(B) 売了 キャンセル		

ドライバのインストールが完了します。

2. COM ポートの確認

・インストール完了後に Product ID の確認を行います。

Windows XP の場合、PC に膜厚計をつないだ状態(本体の電源はオフでOKです)で [スタート] メニューから [マイコンピュータ] で右クリックを押し「プロパティ」を選び、[ハードウエア] タグの デバイスマネージャを開きます。

島 デバイス マネージャ	
ファイル(E) 操作(A) 表示(V) ヘルプ(H)	
 □ ● ● □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	

画面の中の「ポート(COMとLPT)」を選択し、「CP210x USB to UART Bridge (COM?)」の表示と COMの番号を確認します。 3. USB 転送

- ・COM ポート確認後に USB 接続でのデータ転送を行います。
- ・以下 WindowsXP に付属のハイパーターミナルでの確認方法を参考に記します。
 (SWT-8200 II を例にしていますが操作はシリーズで同じです。)

接続の設定 ?×	接続の設定
戦 新しい接続	SWT-8200 II
名前を入力し、アイコンを選んでください。	電話番号の情報を入力してください。
名前(N): SWT-8200 II	国/地域番号(<u>C</u>): 日本 (81) ▼
P1220:	市外局番(E): 03
🌯 🗐 🌭 🖓 🛞 🚺 🧏 阈	電話番号(<u>P</u>):
	接続方法(N): COM5
<u> </u>	OK キャンセル

COM	5のプロパティ			? ×
术	-トの設定			,
	ビット/秒(<u>B</u>):	38400		•
	データ ビット(<u>D</u>):	8		•
	パリティ(<u>P</u>):	偶数		•
	ストップ ビット(<u>S</u>):	2		•
	フロー制御(<u>F</u>):	なし		
	0	ĸ	キャンセル	適用(<u>A</u>)

膜厚計にプローブ・AC アダプタを接続して ON/OFF キーを押し、電源が入ることを確認します。 PC に膜厚計をつないでハイパーターミナルを起動し、表示される接続の設定画面で名前を入力 して OK ボタンを押します。新たに表示される接続設定のドロップダウンリストから確認した COM ポートを選択し、さらに表示されるドロップダウンリストを上から「38400」・「8」・「偶数」・ 「2」・「なし」をそれぞれ選んで OK ボタンを押して設定します。



本体に電源が入っていることを確認してから COM. ENABLE キーを押して LCD 上に USB マークを 表示させ、TRANS-MIT キーを押して転送モードにします。

プローブを測定物に当てて計測し、本体とアプリケーションの画面に同一の数値が表示される ことを確認します(本体はµmかmm・アプリケーションはmm単位)。

数回の転送の後、USBマークの表示を確認してから MEM.-SEL キーを押してメモリ内データ転送モードにし、10 秒以内に TRANS-MIT キーを押して全データを転送します。 メモリ内データ転送モードの際に MEM.-SEL キーを押してデータ範囲をグループ・ブロック・セクションに指定して実行出来ます。

4. ハイパーターミナルの記録

膜厚計 SWT シリーズを用いて USB 転送した計測値をハイパーターミナルを使って記録する方法は

1キャプチャを開始して転送した値を取り込み、
 2キャプチャを停止してファイルに保存
 の手順があります。以下細かい操作を記します。

①キャプチャの開始

転送(<u>I</u>) → テキストのキャプチャ(<u>C</u>) を選びます。

🥦 新しい接続 - ハイパーターミナル		
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 通信(C)	転送(T) ヘルプ(H)	
D 🗳 🚳 🚡 📫 🗳 D	ファイルの送信(S) ファイルの受信(B)	
	テキストのキャプチャ(<u>C</u>)	
	テキスト ファイルの达信(1)	
	キャプチャして印刷(<u>P</u>)	
著信したテキストでファイルを作成します。		

表示される「テキストのキャプチャ」画面で「参照(<u>B</u>)」を選びます。

テキストのキ	ャプチャ	? 🛛
フォルダ:	C:¥Documents and Settings¥user	
ファイル(<u>F</u>):	C:¥Documents and Settings¥user¥	参照(<u>B</u>)
	開始	キャンセル

(表示される画面は PC により異なります)

さらに表示される「キャプチャファイルの選択」画面で、記録するファイルを保存する場所の 選択とファイル名の入力を行い、「保存(<u>S</u>)」を選びます。

下図では保存する場所を	「デスクトップ」、	ファイル名を	「logfile」(こしています。
-------------	-----------	--------	------------	---------

キャプチャ ファイルの)選択							? 🗙
保存する場所①:	🞯 デスクトップ		~ (3	1 🖻	•		
していたしていたしていた。 最近使ったファイル	😂 マイ ドキュメント 🧕 マイ コンピュータ 🧐 マイ ネットワーク							
ブスクトップ								
ک ۲۲ ۴ ۴ 1 ۲۷								
ארב אר ק דר בארב אר								
マイ ネットワーク	ファイル名(<u>N</u>):	logfile				~	保	存(5)
	ファイルの種類(工):	テキスト ファイル (*.TXT)			1	~	* 7	2411

表示されていた「テキストのキャプチャ」画面で入力されたファイル名を確認し、「開始」を 選びます。

テキストのキ	vJfv ?X
フォルダ: ファイル(<u>E</u>):	C:¥Documents and Settings¥user¥デスクトップ¥logfile.TXT ents and Settings¥user¥デスクトップ¥logfile.TXT 参照(B)
	開始 キャンセル

以上の操作を終えた以降の USB 転送された数値のキャプチャが行われます。

※数値のファイルへの書き込みは、後の「ファイルキャプチャの停止」作業後に行われます。

②キャプチャの停止

転送(T) →	テキストのキャプチャ(C) →	· 停止(S)を選びます。
---------	-----------------	---------------

🥦 新しい接続 - ハイパーターミナル			
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 通信(C)	転送(T) ヘルプ(H)		
□☞ @ 》 □Ъ ₪	ファイルの送信(S) ファイルの受信(R)		
[テキストのキャプチャ(<u>C</u>) ト テキスト コライルの送信(T)	停止(S) 	
		□□□419Ⅲ(12)	
	**/JF*U(LIMP)(<u>F</u> /		
キャプチャを停止します			

以上の操作を終えた時点までの数値がファイルに保存されます。

以上

Ver. 1.0 Nov. 2007 Ver. 3.2 May 2011